

# キャンパス点描

## お茶の水女子大学と早稲田大学が連携及び協力に関する協定を締結しました

2017年1月31日(火)、お茶の水女子大学と早稲田大学は「国立大学法人お茶の水女子大学と学校法人早稲田大学の連携及び協力に関する協定」を締結しました。本協定は、両大学における研究・教育・産学連携・国際交流への貢献と相互発展に資することを目的とするものです。

協定調印式後の記者会見で、本学の室伏学長は、「学部・大学院の単位互換、研究指導・論文指導等の連携を始めとして、これからの新しい時代に即した新たな教育研究体系の構築を進めていく一歩であり、今後さらに全学的な相互交流に拡大していきたい。」と抱負を述べました。また、鎌田薫早稲田大学総長は、「理系分野を先駆けとして進めてまいります。国内屈指の女子大学であるお茶の水女子大学との連携により、特に男女共同参画時代を担う人材・研究者の育成にふさわしい教育研究環境がより一層充実することを喜ばしく思います」と期待を述べました。



協定調印後 握手する室伏学長と鎌田総長

今回の包括協定により、今後連携内容が発展的に展開することにより、さらに研究教育の一層の発展充実が期待されます。

## お茶の水女子大学各賞 (湯浅年子賞、黒田チカ賞、小泉郁子賞、保井コノ賞、辻村みちよ賞)の授与式を挙行了しました

2017年2月24日(金)、お茶の水女子大学各賞(湯浅年子賞、黒田チカ賞、小泉郁子賞、保井コノ賞、辻村みちよ賞)の授与式を行いました。湯浅年子賞(以下湯浅賞)は、優れた原子核の実験的研究を行い、国際的に活躍した女性自然科学者湯浅年子博士を称え、黒田チカ賞(以下黒田賞)は天然色素の構造について長年にわたって優れた研究を行い女性化学者として活躍した黒田チカ博士を称えて制定されたものです。第4回湯浅賞金賞は望月優子氏(理化学研究所 望月雪氷宇宙科学研究ユニット 研究ユニットリーダー)に、第2回黒田賞は対馬かなえ氏(国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 特任助教)、工藤まゆみ氏(群馬工業高等専門学校 物質工学科 助教)の両氏にそれぞれ贈られました。

また今年度より、本学卒業後アメリカに留学し『男女共学論』を著すなどの社会的活動を通じて女性の権利向上を広く訴えると



もに日中教育文化交流に尽力し戦後は桜美林学園の創設発展に貢献した小泉郁子氏、日本の生物科学の黎明期から革新的な研究を展開するとともに本学及びその前身校において数多くの女子学生を育て日本初の女性理学博士となった保井コノ氏、本学卒業後数多くの女子学生を育て茶の成分について長年にわたって優れた研究を行い日本初の女性農学博士として活躍した辻村みちよ氏の功

## 国際シンポジウム

# 「科学における女性のリーダーシップとは—アジアと欧州の経験から」 “Improving Gender Balance of Participation in Science: European and Asian Experiences” を開催しました



カレン・シャイア氏



アリソン・E・ウッドワード氏



チョ・ソンナム氏



安西祐一郎氏

2017年2月20日(月)、  
お茶の水女子大学共通講  
義棟2号館にて、グローバ  
ルリーダーシップ研究所  
(IGL) 主催国際シンポジ

ウム「科学における女性のリーダーシップとは—アジアと欧州の経験から」“Improving Gender Balance of Participation in Science: European and Asian Experiences”を開催しました。このシンポジウムはIGL海外特別招聘教授カレン・シャイア氏(デュースブルク・エッセン大学教授)が企画、運営するもので、国内外から3名のゲストをお招きし、STEM分野(\*1)への女性の参画の現状や女性参画の向上に関する政策や制度、取組等について、各登壇者の発表とディスカッションが行われました。当日は130名以上の参加があり、会場は満席となりました。

はじめに榊原洋一氏(本学理事・副学長)より開会挨拶、カレン・

シャイア氏よりシンポジウムの趣旨と登壇者の紹介がありました。続いて、3名の登壇者より発表がありました。1人目のアリソン・E・ウッドワード氏(ベルギー ブリュッセル自由大学教授)より、科学分野における女性人材登用の推進策とその具体的な事例(例えばクオータ(\*2)など)についてご発表がありました。2人目のチョ・ソンナム氏(韓国 梨花女子大学校社会学教授、梨花リーダーシップ開発院所長)は、梨花女子大学校における女性リーダー育成の歴史と科学分野における女性人材育成の教育プログラムをご紹介いただきました。3人目の安西祐一郎氏(独立行政法人日本学術振興会理事長、前慶應義塾長)より、STEM分野への女性進出に関する日本の現状と課題についてご発表を頂戴しました。最後のディスカッションでは、シャイア氏が司会を務め、登壇者全員による意見交換やフロアとの質疑応答があり、STEM分野への女性の参画をさらに推進するためにはどのようなアプローチ、取組があるのか、について活発な議論が交わされました。

\*1 科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、  
数学(Mathematics)などのいわゆる理工系分野

\*2 割当制(quota):一定数を女性に割り当てること



パネル・ディスカッションの様子

績を称えるため、それぞれ小泉郁子賞(以下小泉賞)、保井コノ賞(以下保井賞)、辻村みちよ賞(以下辻村賞)を創設し、この日に授与式を行いました。

第1回小泉賞は小山弓弦葉氏(東京国立博物館工芸室長)、第1回保井賞は佐々木成江氏(名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻准教授)、柴小菊氏(筑波大学生命環境系下田臨海実験センター助教)の両氏に、第1回辻村みちよ賞は島田淳子氏(本学名誉教授)にそれぞれ贈られました。

詳細はHPをご覧ください。

<http://www.ocha.ac.jp/danjo/op/index.html>

